ファイルー復旧



復旧では、物件データを自動保存した日時まで復旧することができます。

- ① 〔ファイルー復旧〕を選択します。
- ②「復旧図面選択」の画面が表示されます。 「物件番号」や「工事名称」をクリックすると、復旧図面の表示順序が変更できます。
- ③ 物件を選択し、「日時」で保存された時間を選択します。 「選択」をクリックします。
- ④ 「確認」の画面が表示されますので、「OK」をクリックします。
- ⑤ 選択した日時の時間まで、データが復旧されます。



〔補助 – 操作モード設定〕の「自動保存」がチェックON場合、設定した時間の間隔で物件データが自動保存されます。

また、設定した世代数(1物件のバックアップ数)が自動保存されます。

※ 設定した世代数を超えると、バックアップ日時が古い復旧図面が削除されます。

ファイル―復旧



補助一操作モード設定一入力設定



入力設定では、自動バックアップの時間と回数と保存先が設定できます。

- 1 〔補助 操作モード設定〕をクリックします。
- 2 「操作モード設定」の画面が表示されますので、「入力設定」をクリックします。

補助一操作モード設定一入力設定

1 2 自動保存	10 🔶 分間隔
	3 🗘 世代
2 自動保存先	C:¥nedrw

③ 自動保存:物件データの自動バックアップの時間と回数、保存先を設定します。

- ※ 自動保存された物件データは、〔ファイルー復旧〕から確認できます。
- 1 「自動保存」にチェックをつけ、自動バックアップの間隔と回数を設定します。
 - ・実行間隔:バックアップする時間を分単位で設定します。

1~30分の間から設定できます。

・世代数:1物件の最大バックアップ数を設定します。

3~10世代の間から設定できます。

バックアップの回数を超えると、古いデータから消去されます。

- ② 自動バックアップの保存先を変更する場合は、「自動保存先」で をクリックします。
- ③「フォルダー選択」の画面が表示されます。 自動保存先を指定し、「フォルダーの選択」をクリックします。 ネットワーク上や外付けのハードディスクが選択できます。

